

## 第1回第二言語習得研究会佐々木嘉則賞 受賞論文

### 【受賞論文】

「日本語を第二言語とする英語・仏語母語幼児の否定形の習得プロセススキーマ生成に基づく言語構造の発達―」『第二言語としての日本語の習得研究』14号、2011年、pp60-79.  
執筆者 橋本ゆかり（横浜国立大学 教育人間科学部／同大学院 教育学研究科）

### 【受賞理由】

本論文は、日本語を第二言語（L2）とする幼児3名を対象に5年間にわたって行われたフィールドワークから得られたデータに基づき、ピボット・スキーマ（認知言語学・用法基盤モデル Usage-based model の習得段階）を膠着語である日本語の否定形の習得に援用し、スキーマ更新による文法習得プロセスの一端を示したものである。さらに、日本語を第一言語（L1）とする幼児との比較により L2 幼児独自の特徴を明らかにしている。対象者こそ3名と少ないが「見かけ上の時間 (apparent time)」ではなく、「実際の時間 (real time)」に基づいて5年間縦断的なデータを収集し、かつ、L2 幼児に関する明確な特徴を丁寧に炙りだした点で、質的研究の模範となりうる論考である。論文中でも指摘されているが、結論の一般化には慎重になる必要があるものの、一つひとつの発話の詳細な分析と、著者自身がフィールドに入り込むことによる、発話状況や発話意図をふまえた丁寧な考察は、斬新で意欲的であり高い説得力を持つ。今後の SLA 研究、日本語教育・学習への寄与度も高く、今後は、本論文で提示された仮説の検証が期待される。

よって、本論文を第1回佐々木嘉則賞受賞論文として選考する。

## 要旨

### 日本語を第二言語とする英語・仏語母語幼児の否定形の習得プロセス —スキーマ生成に基づく言語構造の発達—

本稿は、日本語習得中の幼児（L2 幼児）3 名を対象に行った約 5 年に及ぶフィールドワークから得られたデータを数量的かつ記述的に分析し、「スロット付きスキーマ」生成による動詞及び文構造構築理論（橋本 2006, 2007, 2009）を援用し、否定形習得のプロセスを明らかにしたものである。先行知見で指摘されていた外置から内置への普遍的方向性を「スロット付きスキーマ」の生成により説明し、品詞ごとにスキーマを生成し更新していくプロセスを明確にした。さらに、第一段階で全品詞に「ない」を使用する第一言語習得（以下、L1）と違い、L2 幼児は初期に{□+じゃない}を広範囲に使用していることを示した。{□+じゃない}が意図の伝達と規範形獲得への橋渡しの役割を果たしていることを指摘し、L2 幼児には L1 にはない段階が 1 段階多いことを仮説として提示した。

## The Acquisition of the Negative Form of Japanese as a Second Language in two English-speaking and one French-speaking Infants : The Development of Language Structure Based on Schema Generation

Yukari Hashimoto

### Abstract

I conducted descriptive and quantitative analysis of spontaneous speech collected through longitudinal field work with three L2 infants to clarify how L2 infants acquire the ability to use the Japanese negative form. The following points were revealed. The target-like negative forms are obtained by generating schemas for verb, adjective and noun adjective as well as negative suffix, and modifying them. It indicates that the universal process from external position to internalized placement can be explained using “a schema with a slot” (Hashimoto 2006, 2007, 2009). And L2 infants acquire suffix schemas □+nai for non past verbs, and □+janai for others in the first stage. This result is different from the previous study for L1 infant acquisition. The □+janai schema is used for communication and also serves as bridge for acquiring other language structures. It was also clarified that L2 infants have one more stage than L1 infants in acquiring the targeted Japanese.